九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

[015] 語文研究表紙奥付等

https://hdl.handle.net/2324/10255

出版情報：語文研究. 15, 1962-12-31. 九州大学国語国文学会
バージョン：
権利関係：

編集後記

笹淵友一博士の恩賜賞受賞、春日政治博士の御逝去で、本会最大の慶弔の年となつた一九六二年も残すところあと旬日、本誌の準備に入った頃は大銀杏のてっぺんでしきりに百舌鳥が鳴いていたが。

論文三編に加えて翻刻をひとつ載せてみた。前号以来の企画で、本誌に資料的重みを増す事うけあいだが、このところやゝ投稿が少いというのも事実なのだ。

五期完了の十五号というところでバックナンバーの一覧をかゝげ、いさゝか歩みをふりかえってみた。問題はより良い未来である会員諸氏の御協力を乞うや切。

矢野文博氏の論文、御指定通りの組みにならなかった事をお詫び申しあげる。御不満やさぞと思われるが、今後御投稿の方は、地方の印刷事情を考慮してなるべくは当用漢字で、しかもより組みやすい工夫をお願いする。

次号は春日政治先生の追悼特輯を、一周忌の御霊前に捧げるべく予定している。

法経両学部が新館へ移転をはじめ、その騒音がにぶく研究室へ響いて来る。廃墟のようにがらんどうの部屋が次々とふえていく。文学部の移転は再来年だが、その前に館内移転の声もあり、住みなれた研究室もいずれ長くはない。そう思うからか、この秋はかく別大銀杏の黄葉が美しかった。

（白石記）